

令和 7 年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 2 月 16 日

札幌市立 新陵東小学校

1 新陵中学校区における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	創造への学力を身に着け 豊かな心、思いやりをもち心身ともにたくましい人	「知」、「徳」、「体」の調和のとれた成長を目指す小中一貫した教育を推進する。	A	札教研「春の研究集会」では、3校が「学ぶ力育成部会」、「豊かな心育成部会」、「健やかな体育成部会」に分かれ公開授業、研究討議を行い、それぞれの部会で研修を深めることができた。この成果を日常の実践に落とし込むことができるよう、各校の研究の柱としてさらに推進していく。	A	A
今年度の重点	子どもの声を聴く	「9年間を通した子どもの学びのつながり」という視点を持ち、小中一貫した教育の事業を推進する。	A	札教研「春の研究集会」において、研究の柱として「9年間を通した子どもの学びのつながりを進める」を設定し、それぞれの部会で有意義な研修を実施した。また、中学校主催で小学生向けに開催した「走り方教室」を年代別3部門構成で実施し、9年間を通した健やかな体の育成という視点からの実践を行った。これらが単発の事業で終わらないよう、各校の教育課程にカリキュラムとして落とし込む工夫をしていく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○春の札教研を中学校で参観した時に、中学生と小学校の教職員の関係性が伝わってきたし、生徒から学校運営協議会委員への垣根のない会話等も見られ、9年間でのつながりを感じ嬉しく思った。				

2 新陵東小学校における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	笑顔 元気 支え合う 新陵東の子	・いじめ、生命尊重への態度を高める指導の充実	A	・養護教諭が中心となって命の学習を継続していく ・教職員も日々の指導や教育活動により相手を思いやる意識が向上しているという捉えであり、次年度も、他者意識をもち笑顔で元気に活動できる子どもの育成に努める	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○情報モラルについてはインターネットの使い方について、保護者と一層連携をとってほしい。 ○保護者が機器の設定を理解するための手立てもPTA等で考えたり、連携したりしていけるとよい。				

人間尊重の教育	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり	・子どもが自分のよさや多様性の尊重を認識できるような関わり ・安心して過ごすことができる学校空間	A	・特別支援教育コーディネーターを中心とした多様性に関する学習の実施 ・外部講師を活用した多様性に関する出前授業の実施 ・誰もが安心して過ごすことができる場の提供	A	A
「学ぶ力」の育成	「学ぶ力」育成プログラムの実践	・AARを意識した課題探究的な学習の実践 ・進んで「話す」最後まで「聞く」力の育成	A	・「学びを実感する」ことに重点を置き授業実践の積み重ね ・相手が「聞いてくれている」思えるような聞き方の姿勢や反応の指導	A	A
「豊かな心」の育成	「豊かな心」育成プログラムの実践	・気持ちのいいあいさつや正しい言葉遣い ・グッスリーデーを通して、個を高める取組	B	・あいさつに対する意識の向上を目指した月に一度の担当学年によるあいさつ運動の実施 ・グッスリーデー（読書・睡眠・朝ご飯）の年間を通した意識の継続のための出前授業（睡眠）の実施や振り返りカードの活用	A	A
「健やかな体」の育成	「健やかな体」育成プログラムの実践	・自治的な委員会や学級活動、縦割り活動 ・運動習慣をつける場の設定	A	・委員会活動の内容の精査や時間の保障 ・学ぶ力育成部に自治的な活動担当を設けることによる、自治的な活動の充実 ・〇〇週間の実施による運動機会の提供や、ボール投げの的、体力テスト前の50m走の場の設定	A	A
学校関係者評価委員会による意見		○健やかな体育成に関しては、場の設定や教職員の負担軽減となる取組も見られてよいと思う。 ○豊かな心育成の「あいさつ」の表は、家庭と学校で違いが出てくると思われるので、学校ではどうかを主にして考えていってもよい。				

学校独自に設定する分野	いじめ防止に向けた組織的な取組	A	・学びの支援委員会を中心とした定期的な会議の開催と全担任による情報共有の継続 ・全教職員が「いじめ防止などに関わる基本方針」をおさえる ・特別支援教育コーディネーターを中心としたケース会議の定期的な開催	A	A	
	信頼される学校の創造	A	・「すぐる」や学校ホームページを活用した情報の発信 ・地学協の活用による、より一層の学校・地域・家庭が協力した子どもたちへの支援	A	A	
	安心安全な学校の創造	A	・安全点検の日を毎月行うことによる、担任、児童の安全に対する意識の向上と危険箇所の早期発見 ・活動の意図を明確にした避難訓練や学級指導で、子どもたちが自らの命を守ろうとする意識を高める	A	A	
学校関係者評価委員会による意見		○今後も継続してほしい				